

S a s h i m o n o

指物

Daisuke Masuda

益田 大祐

指物益田

- 2005年 指物益田 創業
- 2009年 墨田区に移転し、
墨田区伝統工芸保存会に入会
- 2014年 すみだマイスター認定

◆受賞歴など

- 2011年・2012年 すみだブランド認証 「おとも箱」
- 2016年 『LEXUS NEW TAKUMI PROJECT』の
東京の匠に選出 「合曳（あいびぎ）」

さしもの 指物とは？

指物の歴史は京都が長く、平安時代の宮廷文化まで遡ることができ、当時は大工職の手で作られていました。専門の指物師が生まれるのは室町時代以降、武家生活の中で、棚類、箆筒類、机類の調度品が増え、また茶の湯の発達に伴い箱物類などの需要が増えてからのことといわれています。

京都の指物は、朝廷や公家用のもの、茶道用のものが発達し、雅や侘の世界の用具として、江戸指物は、武家用、商人用、そして江戸歌舞伎役者用として多く作られ今日に至っています。桑、樺、桐など木目の綺麗な原材料を生かし、外からは見えないところほど技術を駆使し、釘を使わずに、ノミや小刀などを使って凹凸を彫り込んで組み合わせることによって作られ、とても堅牢で数十年使い続けることができます。

技へのこだわり

商品を製作するうえで一番のこだわりは技を生み出すための道具です。木を滑らかに削り、溝を作り、コンマ1ミリの精度を作り上げる。そのためには様々な形・大きさの鉋や鑿を使います。使うたびに手入れをし、自分の手に馴染むよう育てていき、その道具を使うことで出来る技の精度はやはり機械とは違います。仕上がりの木目の美しさ、どの木目を生かすかにもこだわっています。そして何よりこだわりたいのはそうやって生みだされた商品を使う人への使いやすさです。例えば鏡台ならば使う人の使い方や体型など。例えば修理であるならば受け継がれた思いとどのように今後使っていきたいかなど。

お客様一人ひとりにも必ずある“こだわり”を受け止めて商品を製作することにこだわっています。



中村芝翫文楽屋鏡台

『LEXUS NEW
TAKUMI PROJECT』
波 akari

